

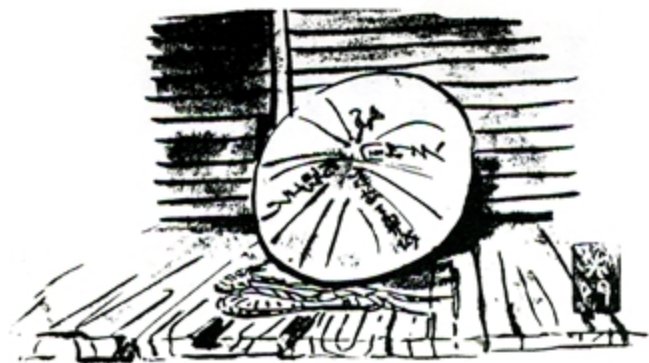
天真爛漫な巡礼エッセイ日めくり

四国八十八カ所

女へんろ元氣旅

森 春美





白装束が

朝日にまぶしく

恥ずかしく

そして誇らしく

私たちは

歩き始めました

平成二年十一月十日

遍路道は幅一メートルぐらいしかありません。誰もいない。音もしない。車の音も、人の声も。二人だけ。本当に山に二人だけ。京子は足が早く二人の間は離れてしまいません。立ち止まると、おたがいの金剛

杖の鈴の音。シンと静ま

った山の中にチリンチ

リン……。それを聞くと

なぜか安心します。



誰のために…

何のために…



月の光の

なんと明るいことでしょう

月明かりだけで

山道を歩けるといふことを

初めて知りました

遍路が

教えてくれたように

川の流れるように

自然に

素直に

人生歩んでいけたら

